



大崎町バイオマス活用推進計画

2015 年度～2024 年度版

大 崎 町

この大崎町バイオマス活用推進計画（以下「本計画」といいます。）は、2014 年度（平成 26 年度）に実施された「平成 26 年度 大崎町バイオマス活用推進計画策定業務」により調査・推計された値等をもとにしながら、大崎町におけるバイオマスの活用についての推進計画をとりまとめたものです。本計画におけるデータの詳細は、「平成 26 年度 大崎町バイオマス活用推進計画策定業務報告書」（以下「報告書」といいます。）をご覧ください。

はじめに



大崎町は、県内初めてのバイオマス利活用推進計画を策定しました。あすばる大崎では木質バイオマス利用促進のための薪ボイラーを導入し、化石燃料の削減による温室効果ガスの排出抑制を進めるとともに、木質バイオマスの利用促進を図っています。この取組は、国が進めるＪ－クレジット制度による県内で初の登録事業となり、このほど初めての削減量認証を得たところです。

本町には様々なバイオマス資源が存在しています。本計画が県内初のバイオマス活用推進計画として県内のモデルとなり、これらの利活用が今後よりいっそう促進され、地球温暖化防止への貢献、地域の産業振興、雇用拡大へとつながることを期待しています。

平成２７年４月１日

大崎町長 東 靖弘

目 次

第1章 計画の背景と基本的事項	1
1 計画の背景	2
(1) 大崎町の概要	2
(2) バイオマスとは	5
(3) バイオマス活用への期待	5
(4) 国・県の動きと計画の位置づけ	7
(5) バイオマスを取り巻く背景	8
2 基本的事項	11
(1) 計画策定の目的	11
(2) 計画期間	11
(3) 計画の評価と取組効果の検証	11
3 計画の推進体制	14
第2章 バイオマスの現状と未来	15
1 バイオマスの現状	16
(1) 概況	16
(2) 家畜ふん尿	25
(3) 農業残さ	30
(4) 木質系バイオマス	32
(5) 下水汚泥・し尿	34
(6) 生ごみ等	35
2 将来推計と利活用の方向性	36
(1) 家畜ふん尿	36
(2) 農業残さ	38
(3) 木質系バイオマス	40
(4) 下水汚泥・し尿	43
(5) 生ごみ等	45
第3章 バイオマスの活用に向けて	47
1 バイオマス利用の目標	48
2 目標達成のための取組方針	50
3 取組内容及び工程	51
(1) 取組方針1（メタン発酵利用）推進のための方策	51
(2) 取組方針2（飼料化利用）推進のための方策	58
(3) 取組方針3（木質バイオマスの活用）推進のための方策	60
(4) 取組方針4（バイオマス施設を活用した環境学習）推進のための方策	63

第1章 計画の背景と基本的事項



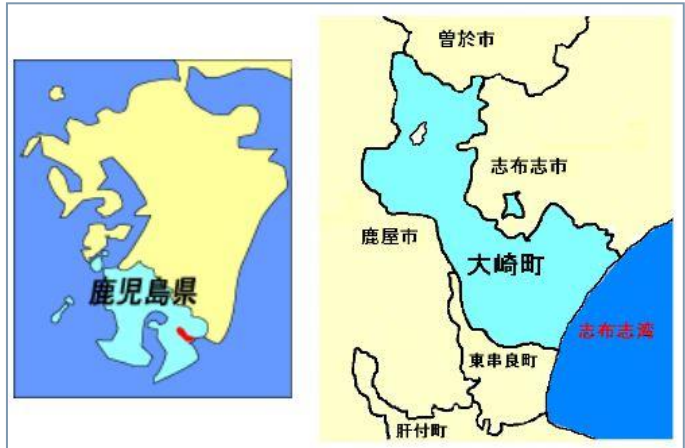
あすばる大崎 バイオマスボイラー

1 計画の背景

(1) 大崎町の概要

大崎町（以下「本町」といいます。）は、鹿児島県の本土、大隅半島の東に位置しています。志布志湾に面し、隣接市町は曾於市、志布志市、鹿屋市、東串良町となっています。東西約 8km、南北約 18km で、総面積 10,082 ヘクタールを有しています。志布志湾に面した約 7km の海岸線一帯は日南海岸国定公園に指定されており、「日本の白砂青松 100 選」にも選定されています。

図 1-1 大崎町位置図



住民基本台帳による本町の人口は、平成 27 年 1 月 1 日現在で 14,069 人となっています（町役場提供）。第 2 次大崎町総合計画では、平成 32 年時点での人口を 12,578 人と推計しており、漸減傾向にあることがうかがわれます。本町では人口の定着のため、総合計画に基づき、新産業の創造、福祉・生活・教育環境の充実、定住促進対策など、積極的な取組を展開しています。

表 1-1 人口

単位: 人

	H7	H12	H17	H27	H32
高齢人口(65歳以上)	3,481	4,152	4,523	4,923	5,017
生産人口(15～64歳)	10,099	9,438	8,759	7,417	6,279
年少人口(15歳未満)	2,900	2,428	2,021	1,462	1,282
合計	16,480	16,018	15,303	13,802	12,578

出典: 第2次 大崎町総合計画(H27・32は推計)

本町の森林面積は 3,589 ヘクタール（表 1-2 参照）で、総面積の約 30%を占めており、農地に次いで大きな面積となっています。森林面積のうち約 58%が人工林で、主としてスギとヒノキが植林されています。鹿児島県全体の森林割合である約 64%を下回るものの、本町の森林はその多くが起伏の比較的少ない丘陵地や平地にあるため、間伐材や林地残材などを運び出しやすいという特徴を有しています。

表 1-2 森林面積

単位: ha

総土地面積	森林面積	国有林	民有林										総土地面積に占める森林の割合(%)	民有林に占める人工林の割合(%)	
			樹林地							伐採跡地	未立木地	更新困難地			その他(ソテツ)
			針葉樹		広葉樹		特殊樹林		竹林						
			人工林	天然林	人工林	天然林	人工林	天然林							
10,082	3,589	211	1,793	12	154	911	1	—	363	31	72	41	—	36%	58%

出典: 平成26年度鹿児島県森林・林業統計

本町は、総面積のうち約 43%にあたる 4,337 ヘクタールを農地（畑地・水田）が占め、温暖な気候を生かした畜産や果樹、普通作物の生産が盛んに行われています。

表 1-3 地目別面積

単位: ha

合計	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	その他
10,082.0	1,002.5	3,334.1	776.9	3,053.4	330.6	237.0	1,347.5

出典：平成25年度固定資産概要調書

主要な農産物としては、牧草、かんしょ、秋冬だいこん、だいこん、ソルゴー※¹ などがあります（表 1-4 参照）。

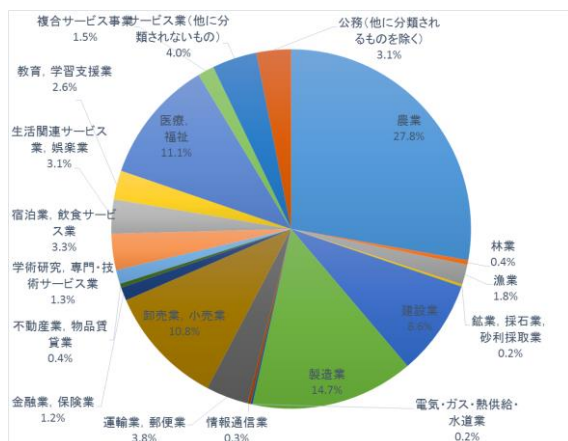
本町の産業構造として、農業を中心とした第1次産業への就労者数が最も多く（図1-2参照）、全体の約3割を占めています。ついで製造業、医療福祉系が続きます。主要な産業である第1次産業からは多様なバイオマス資源が提供されます。製造業についても食品製造業などバイオマス資源が提供される業態が含まれています。

表 1-4 大崎町における主な農業生産物

品目	作付面積	収穫量 (t)
水稻	503	2,390
小麦	1	2
大豆	1	2
かんしょ	606	19,500
そば	221	223
なたね	7	12
牧草	1,200	92,000
青刈りとうもろこし	65	3,800
ソルゴー	117	
茶	69	1,160
だいこん	174	9,300
にんじん	5	185
ばれいしょ	69	1,976
さといも	20	280
はくさい	4	290
キャベツ	38	1,786
ほうれんそう	1	15
レタス	2	36
ねぎ	14	219
たまねぎ	1	33
きゅうり	5	477
なす	5	647
トマト	1	83
ピーマン	1	132
秋冬だいこん	256	13,700
冬キャベツ	82	3,870
ごぼう		
みかん	38	772
ぶどう	1	1
おうとう	4	10

(出典：H25、H18 作況調査)

図 1-2 産業構造（就労者人口）



※1 ソルゴー：

茎葉を緑肥や飼料とするために、また茎から甘汁を採るために栽培されるイネ科の一年草。トウモロコシの1変種とされる。

